

挽き板直貼りフローリング 施工要領書

※こちらの施工要領書は、遮音等級 LL45 タイプのものではございません。

下地について

1. モルタル下地の場合

- ①不陸の無いようにしっかりと金ゴテ押さえをして表面を固くして平滑に仕上げる。特に部屋の隅及び、出入り口のハネ上がり、落ち込みの無いよう巾木(壁)に直角に押さえる。
- ②モルタルの乾燥度は水分10%以下に乾燥しなければ施工しないこと。モルタル養生期間は通常施工可能な目安として打設後1ヶ月程度。特に、厳冬期は、地域的にも、又同一現場でも、条件によって差があるので十分に注意すること。
- ③下地が粉を吹いて除去が困難な場合は施工が出来ない場合がある。表面強化剤等(別途)を用いて対処しないと剥離の原因になります。
- ④施工用の接着剤はエポキシ2液接着剤を使用すること。
(推奨コニシ(株)E350R)
- ⑤床暖房の場合、施工前に床暖房の運転を行いモルタル面のクラックの有無を確認し補修後(別途)に施工を行うことで後日の隙間発生の原因防止となります。
- ⑥不陸の目安は2mあたり3mm未満になること。
- ⑦施工面にはシート等物を置かないで下さい、天気の日窓を開放して通気性をよくする。

2. 合板下地の場合

直張用材での接着剤施工時は指定の接着剤を使用して施工すること。釘を使用すると材料の裏面クッションが凹み釘の保持力が見込めず床鳴り等の原因にもつながるので使用は避けること。

3. 根太レス工法の場合

根太レス工法の場合、下地には24mm以上の構造用合板を使用し、構造用合板とフローリングが直交するよう施工すること。

4. 二重床の場合

二重床の場合はパーティクルボードに直交に12mm以上の構造用合板を捨て貼りすること。

5. 改造工事の場合

塩ビ系統、塗り床等の場合

古くなったPタイル等の上には施工出来ないため、床材、接着剤を完全に取り去りモルタルの表面が出る迄綺麗に清掃した後施工する。

尚、古い床材、接着剤が取り去れない場合は、厚み12mm以上の完全耐水合板をモルタル釘及びエポキシ系接着剤を併用して下地を作り施工すること。

6. 下地ゴムチップパネル温水床暖の場合

温水パイプがゴムチップに平滑に施工されているかを確認する。

施工する場合、パネルの長手方向に対してフローリングは直交するように施工する。施工方法は接着剤を用いた直張工法、接着剤は1液ウレタン系で施工する事(推奨コニシ(株)KU928)

材料は下地ゴムチップ用の特注品での直張施工になる為、予め材料打ち合わせをしておく。

必要な補助材料

材料名	使用目的	必要量	
・ 2液エポキシ接着剤 コニシボンド E350R	製品の接着 モルタル、合板下地 接着材での施工	m ² /600～750g 増減あり	備考
・ プライマー(別途) コニシボンド ボンド E200	モルタル下地 不陸処理	m ² /600～800g	コニシ株式会社
・ 1液ウレタン接着剤 コニシボンド KU928R,C-X	製品の接着 根太、合板下地 糊、釘併用施工	m ² /600～750g 増減あり	コニシ株式会社

※施工用の接着剤は上記製品以外を使用する場合は必ず木質床用の接着剤を使用する

コニシ株式会社

工程（モルタル下地及びセルフレベリングの場合）

1. 下地検査

下地の含水率を測定し、施工可能か調べる。（ケット社、モルタル用含水率計）

2. 下地処理

①下地研磨

下地表面に付着している異物を除去する。下地の表面が悪い時にはワイヤーブラシ付ポリッシャーで、表面残留セメントを取り除く。

②清掃

箒で大きなゴミ等を除去し、掃除機で小さなほこりまで除去する。

3. 基準線の出し方

①貼る方向の決定

原則として、入口を基準として貼って下さい。

②割付、墨出し

貼り始め部分と貼り納め部分が同じ巾になるように割付し、墨打ちする。

4. 直貼り用直貼りフローリングの施工

①清掃

施工直前には、必ず掃除機、箒で下地表面を清掃する。

②貼り始め部分の巾決め

墨打ちした線に沿って製品を並べ、定規で巾木にならって寸法を出し、貼り始め部分の巾決めをする。

③製品のカット

巾決めした製品を、台付小型丸鋸でカットする。

④接着剤の塗布

貼り始めより、製品3～4列分の巾に櫛べらで接着剤を塗布する。
塗布量はモルタル下地で600～750g/㎡、合板下地で、300～550g/㎡とする。
尚、接着剤塗布の際、乾燥接着を起こさぬよう注意する。

⑤貼り込み（直張り）

墨に従って行い、ゴムハンマーを使用し順次よせながら隙間ができないように張り込む。ダメ廻り等の各部の取り合い部分は、予め欠け込みを入れて準備しておき、接着剤の可使時間を考慮して張り終えるようにする。床材表面に付着した接着剤は、硬化しないうちに拭き取り、表面の汚れ等も除去する。

※直張りで施工する場合は釘は使用せず接着剤のみで施工する事

※無塗装品の場合はこの後現場仕様による塗装作業に入る

⑥エキスパンション

必要に応じて材料の伸縮に対応するようクリアランス等を設けること

⑦清掃

製品の空箱、接着剤の空缶、その他作業で出たゴミをかたずける。ホコリ、鋸クズ等は掃除機で除去する。最終工程が完了したら、自主チェックを実施する。

5. 完了チェック

・貼り忘れはないか ・巾木、下枠との取り合いはよいか ・目違いはないか
・キズはないか ・接着剤による汚れはないか
貼り込み完了後、約12時間程立ち入り禁止とする。

6. 養生

貼り込み完了後、作業する場合は、床をキズつけたり、汚したりしない様、ダンボール、シート等でしっかり養生する。

●施工後

- ・施工用接着剤が固まってからフロアを寄せることはお止めください。
- ・くさびは施工翌日から3日後までに抜き取ってください。
- ・室内に湿気がこもらないように適度に換気を行ってください。直貼りフローリングは吸放湿により伸縮するため、施工条件や使用環境によっては、表面に波打ちが発生する可能性が高くなります。

●養生について

- ・施工後は直射日光を避け、傷や汚れを防ぐために養生シートをかぶせ、養生テープで固定してください。
その上に合板、養生ボードを敷いて、十分に養生します。
その際、必ずフロア表面を掃除し、養生シートとフロアの間にごミが無いようにしておきます。
- ・養生シートは必ず、窓際・サッシ際まで被せてください。
養生シートがかぶっていない箇所は、直射日光に当たり色が変わる場合があります。
- ・養生シートは平面（フラット）タイプをご使用ください。
（凸凹（エンボス）タイプの養生シートを使用すると、艶ムラや養生シートの跡が残ってしまうことがあります。）
- ・養生テープは、絶対に直接フローリング表面に貼らないでください。
剥がす際に、毛羽立ちが起きたり、塗装を傷める可能性があります。

●お手入れについて

- ・挽き板直貼りフローリングは、各塗装仕上げによってお手入れ方法が異なります。
詳しくは、下記 URL 「お手入れ方法」をご参照ください。
<https://www.muku-flooring.jp/maintenance/>

東京駅から電車で8分・新木場駅より徒歩2分

